

平成27年10月1日

会員各位

協会だよりー274(10月号)

JCRA(Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

トピックス

- 11月16日(月) 創立40周年記念祝賀会 於：如水会館(一ツ橋)
- 11月17日(火) 創立記念ゴルフ大会 於：相模原ゴルフクラブ(相模原市)



東名富士CCコースよりの富士山

- 一. 協会よりのお知らせ
【実施済事項】
【予定事項】
- 二. 事務局より(十月度の予定)
- 三. 久しぶりのインド訪問記
- 四. 【雑学】町田市を歩く(町田の中心街・原町田を巡る)

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① 協会だよりー273(9月号)をメール&郵便で送信(8/31)
- ② 臨時会費(祝賀会開催)・請求書の発送(9/4)
・・・第40期定期総会で祝賀会開催承認済みです。
- ③ 第五回運営委員会
日 時：平成27年9月17日(木) 16:00~17:00
場 所：堺化学工業㈱東京支店
議 題：40周年祝賀会の準備状況。一泊研修会の最終確認等。

【予定事項】

- ① 第226回月例会(一泊研修会)
日 時：平成27年10月2日(金)~3日(土)
見学先：田中貴金属工業㈱富岡工場、富岡製糸場、他
- ② 第六回運営委員会
日 時：10月15日(木) 16:00~17:00

場 所：堺化学工業(株)東京支店

議 題：40周年祝賀会の準備。新年会・講演会。

③ CMA J, J C R Aの幹部交流会

日 時：10月26日(月) 18:00~20:30

会 場：J Xグループ六本木クラブ

2. 事務局より (10月度の予定)

月	火	水	木	金	土
9/28	9/29	9/30	1	2	3
×	○	○	○	第226回月例会(一泊研修会)	
5	6	7	8	9	10
×	○	○	○	×	×
12	13	14	15	16	17
体育の日	○	×	運営委員会	先進事例発表	×
19	20	21	22	23	24
×	○	×	×	○	×
26	27	28	29	30	31
幹部交流会	○	×	×	○	×

10月度の出勤予定：13日間、×赤字は個人予定有。

3. 久しぶりのインド訪問記

去る5月、約20年ぶりにツアーでインドを訪ねた。今までは仕事で4回来ており今回5度目である。初回は昭和55年12月に熊沢氏と二人でデリーとボンベイ(ムンバイ)を訪ねたが、最初の海外旅行が印度で兎に角驚いた。人々は浅黒く路上には乞食が溢れており、タクシーの中に手お差し入れ恵みを求めるも、ドライバーは知らぬ顔、ひどいものだ。顧客のウッシャー家半導体工場への納品打ち合わせでビネイレ社長は歓待してくれた。訪印最初のトラブルはホテルで冷蔵庫の瓶入り水でウイスキーを希釈し、下痢をした。当時は今のようにミネラルウォーターは無く、瓶入りも怪しいもので以後レストランの水以外は飲まなかった。

帰路タイ航空でシンガポールへ向かったが、タイ人スチュアデスが美人に見えて困った。昭和59年にも訪印し、平成4年での3回目は森君を同伴し、デカン高原の中心部の都市ハイデラバードを訪問した。医薬品製造触媒の納品で、武田薬品にも売り込んだが担当曰く、世界の医薬品は多くがハイデラバードで生産輸出され、入手した会社は小分け後自社レッテルを貼り販売の由、意外な知識を得た。ハイデラバードは90%の市民がイスラム教徒で、以前印度からの独立を宣言したが、政府軍隊に押しつぶされた経緯がある。一際目立つ白亜の殿堂なる病院があり感心した所、実は以前王様の夫人達300人の住まいで、名前を覚えきれない王様は番号を付けお伽の時は番号で呼び出した由、精力絶倫でないと王様は務まらない。

ホテル内の土産物店で主人が自分のテイシャツを気に入り、店内の何でも好きな品と交

換条件で、終に脱がされ下着一枚で部屋へ戻った。極細線で描いた絵がシャツ代である。

この男が日本語で書いた便箋を自分に見せ、数か月間滞在し仲良しになった日本人が記したもので俺をほめているから読めと渡された。その内容では、この男は悪い者ではないが、店内の商品は値段が倍になっている故気をつけろとあり、店主の言通りほめてであると伝えた・多分誰も本当の内容を話さないようだった。4年後塙君とヨーロッパ帰りに寄ったが、帰路便が故障で遅



れ、小型飛行機を並べ部品を付け替えているのが見え、危険で搭乗をあきらめ延泊と思ったが、別便が手配され何とか脱出できた。ウッシャー家は印度でも5指にも入る大財閥で、日本の旧三井三菱家に相当し印度人は誰でも知っている。CEO Mr.ビネイレは英国の大学で学び、美しい奥さんをカルカッタから嫁をもらい、結婚式に当社貿易部の者が招待されている。夫婦で来日すると主人は仕事で忙しく、自分がデパート等へ案内していた。何しろ\$18M(当時¥200/\$で¥36億円)の持参金付き名家のお嬢さんであり、二人姉妹と聞いている。年間13%の利息で¥4億円を上回る自然増になる。サリーを着ており、きわどい線がのぞけそうだったが夫人曰く、Mr 鶴岡はもっと見たいのではとの冗談で大笑いした。金持ちだが決して無駄使いはせず、子供が幼稚園児の頃ゲーム器を買ってあげようとしたら、叱られ絵付きの鉛筆と消しゴムで十分と訂正された。反面自分が印度に居る時は買い物全て彼女負担で、ここは印度と主張された。或る時「タージマハール」へ行こうと誘はれたが、タイトスケジュールで断ってしまった。しかし20年以上経て世界遺産のこの地を訪ねたく、5月にツアーに参加した。世界で最も美しい白亜の霊廟とよばれ、印度史最強のムガル帝国、シャージャハーン王の妃の墓であり、デリーから車で5時間のアグラ市川沿いにある。私も女性はサリーを男性はクルタパジャマに着替えて観光と写真撮影をした。



前日少し離れた場所で夕陽とタージマハールが美しいコントラストをなす地でビールを呑みながらの眺望は最高でした。子供たちは風揚げで楽しんでおり、近傍のイスラム学校ではウルドゥ語の勉強をしているとの事、6時になるとイスラムの経典がマイクで放送された。我々は三人乗りバイクで路地を抜けバスに戻り、その日を終えた。ホテルは超高級で広大な庭があり、環境設備も一流で汚い街の中にここだけ白亜の殿堂といった感じ、以後のホテルは全て同様であった。インドのハイクラスの娘達はホテルでデートをするらしいが、日本のラブホテルとは全く異なり勘違いされないように。話は戻り、「タージマハール」霊廟の中央に妃の遺体(レプリカ)、

隣に王が安置されている。実は晩年王子に捕獲幽閉され更なる立派な廟はかなわず、妃の脇に葬られた。

さて、ガイドの言では印度には八つの宗教が共存しており、ヒンズー教、仏教、ジャイナ教（200万人）、シーク教（生涯髪を切らず、ターバンを巻く）、イスラム教、キリスト教、ハイカ教（6万人、鳥葬）、ユダヤ教（5000人）で、総人口13億人とも言われ一秒間に5人誕生しているよし？例のカースト制度はボンベイではかなり薄れているらしい。しかし女性軽視はひどく、男には葬式があるも女は無い。又女性はかならず結婚しなければならず、持参金負担が大変でサラリーマンは娘3人で破産するといわれている。男が持参金欲しさに奥さんの殺人事件を何かで読んだことがある。現在女923人に対し男1000人の割りあいだが墮胎が多く、出産前の男女検査は中止されている。又夕方暗くなると女性の外出は厳禁で、軟派される事を極端に嫌う風習がある。確かに薄暗くなると外は男のみであった。先のカースト制の件だが、当社の印度代理店ケメットのスタッフがよく働いてくれたので、ボンベイのホテル夕食に招待したら二人の印度人へのボーイ態度が悪く驚いた、勿論我々には丁寧だが、印度人はここへは来るところに非ずとの態度で不愉快な思いをしたが、彼らは意に介せず楽しんでもらいホッとした。

さて、市民の60%は30歳以下と若く、道路は若者で溢れており年寄は見かけず日本と正反対である。ガイド曰く日本人は生かされており、印度人は生きている？牛も乳が出なくなると放出し野生化する。所得は少なく92%の印度人は無税であり、特に農家は無税だが消費税は25%と高い。学校は小学（5年）、中学（5年）、高校（2年）、大学（3年）で、高校に60%行くらしい？

以前に比較し少しはよくなっているが、地方の道路はひどく凹凸が多く運転手はクラクションのなりっぱなしだ。さてツアーの主目的は3都市、デリー、アグラ、ジャイプールに点在する8ヶ所の世界遺産見学であり、都市間の移動に5時間余りを要し悪路と高速の繰り返しで早朝から夕方までの観光は大変、特に5月のこの地は年間で最高に暑く、連日46度Cには閉口した。人間は46度Cの湯には入れないが外気は大丈夫、水の補給と塩分を取っていれば何とかなる。ニュースより当地で1500人熱中症から死亡と知るも、裸足で無帽ならありうると思う。バス内を冷房しても冷気が逃げ、外気マイナス10度Cの36度Cがやっとであり、想像を超える環境だ。疲れて車内に残るとの言に対し、一時間の外歩きにもったいないのでエンジンを切る由、ミイラになってしまう。各遺跡は皆広大で日光を上回る規模の壮大さで素晴らしい遺産だ。ジャイプールのアンベール城などは山頂に王宮があり両側の山波みに万里の頂上ごとき城壁が続き1000年以上の昔よく出きたと感心する。気候の良い時期にゆっくり観光したく思うも、印度観光は夢中になる人がおり止められないと聞く。実際ハイデラバードの空港で若い日本人の娘さんに話しかけられ、一人で印度観光を続けてきたが資金が底をつき帰国すると聞き驚いた記憶がある。最後に今回ツアーの内容を記す。

デリー：市内観光、インド門、レッド・フォード→アグラへ。市内観光、世界遺産タージマハール 世界遺産アグラ城。→ジャイプールへ、世界遺産ファターブル・シクリ、市内観光、世界遺産アンベール城、風の宮殿、世界遺産ジャンタル・マンタル天文台→デリー：世界遺産クトゥブミナール、世界遺産フマユーン廟。

以上、アジア物性材料㈱ 鶴岡 武

4. 【雑学】町田市を歩く I (町田の中心街・原町田を巡る)

町田自由民権カレッジ(3年制)では明治時代前後の自由民権と郷土理解のため、年二回のフィールドワークがある。二年次6月の土曜日にJR町田東口へ9時半集合、参加者は受講者17名、町田市自由民権資料館学芸員の小林、友田両先生を加えて19名集合、天候快晴で出足は良好である。

今日は町田市の中心街・原町田にある9ヶ所の見学が予定されている。昭和33年、町田町、鶴川村、忠生村、堺村が合併して町田市が誕生した。当時の人口は約5万人であったが、以後大型の団地が次々と建設され、東京のベッドタウンとして人口が増加し、平成27年5月では約43万人の大都市(?)となっている。隣接する市は東京都八王子市、多摩市と神奈川県相模原市、横浜市、川崎市に接し神奈川県に食い込んだ地形となっている市である。明治27年に三多摩東京移管されるまでは神奈川県に属していた。原町田は町田市の商業街であり小田急町田駅やJR町田駅(横浜線)も近く中心街といっても良い地区である。その訪れた足跡を、まとめて見た。

ゴシックの文章は資料館・小林、友田両先生のフィールドワークのレジュメである。

① 延命院跡地

天満山延命院。本山修験。田原因幡が開山・開基。

山号は天満宮の別当を兼ねていたために付けられたものと考えられる。神仏分離令の影響か明治初年に廃寺となる。

所在地は原町田6丁目8の東急109(町田中央公民館)の場所と考えられる。特に原町田は都市計画で変貌が激しく昔の面影はあまり無い。40年ほど前は小田急の駅名が新原町田、国鉄の駅が原町田と称して駅と駅との間は500mほど離れ、その繋ぎの道路はマラソン道路と呼ばれていた。



東急 109 町田店

② 浄運寺

所在地は原町田のほぼ中心地、原町田6丁目21の場所である。幕末に大砲を鑄造するために浄運寺の梵鐘を幕府に供出する代わりに、鉄砲を献上したといわれている。よく見ると現在の梵鐘は新しく、幕末に嘆願して残った梵鐘ではないようである。



法要山浄運寺。日蓮宗。矢部淡路が開基し、その後武藤佐次右衛門とその母が入寺し、山号が付けられた。大須賀明の墓、長岡織部の墓、名主武藤家の墓地がある。

大須賀は、大蔵村に居住していた医師で、1892（明治25）年の総選挙で石坂派を裏切って吉野泰三を支持したために、凌霜館生（＝壮士）により暗殺された。明治20年代前半には、町田の青年結社・辛卯会の中心的役割を果たしていた。



大須賀明の墓



長岡織部は幕末に移住してきた水戸浪士で、原町田で刀研師をしていた。新撰組の野口健司に剣術（神道無念流）を教えたと言えられるが、定かではない。民権家細野喜代四郎、五十嵐文平をはじめ明治初年に町田周辺に多くの門人を抱えた（五十嵐文平が教わったのは天自流という流派）



長岡織部の墓



《野盗塚物語》



アリババと40人の盗賊と似た物語が武藤家にありました（樽に入って侵入）。

③ 原町田の町並み

現在の**乾物屋河原商店**などが横浜との**流通が盛んだったころの面影を残す。**

原町田4丁目6あたりであろうか。旧町田街道の道幅と町並みは江戸時代末期の原町田村の写真とあまり変わらない感じのようだ？

④ 三橋家・武藤家・渋谷家・吉田屋（土方周助家跡）

民権家渋谷仙次郎・三郎兄弟の生家跡地。幕末にシュリーマン（考古学者）¹⁾やベアド（写真家）が泊まった旅館吉田屋跡地。

渋谷家は原町田3丁目2、現在ホテルザエルシー（町田中央図書館）のビルが建っている場所である。吉田屋跡は原町田3丁目3の町田商工会議所・駐車場の場所と考えられている。



ホテルザエルシー



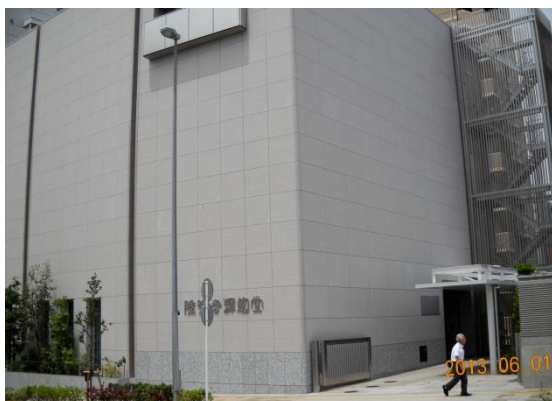
商工会議所の駐車場が吉田屋の跡地

⑤ 勝楽寺

三宝山紹隆院勝楽寺。浄土宗。三橋新右衛門が開基。融貫社が集会に使用した寺院で、演説会なども開かれた。三橋家の墓、土方弥兵衛の墓がある。



所在地は原町田3丁目の3～5にわたる広大な敷地のようである。三橋国民氏（名誉都民であり名誉市民でもある）の美術館を併設した高層のビル作りの釈迦堂が建立されている。



勝楽寺の梵鐘も幕末お取り上げの沙汰があったが、どうなったかは判明しない。現在の梵鐘はその時代のものではないようである。第二次大戦時も金属供出の話はあった。

⑥ 宗保院

金森山宗保院。曹洞宗。金森村地頭高木伊勢守・守久の叔父大河伊与（光雪院安心宗保居士）が開基。『新編武蔵風土記稿』に記載されている本堂は明治2年に焼失し、明治4年小山村名主萩原四郎兵衛宅を移築したが、昭和39年再び焼失。もともとの配置は街道（絹の道）の方向を向いていたと思われるが、横浜鉄道（現横浜線）開通（明治42年）により遮断され、本堂の焼失、再建により現在の向きになったようである。



所在地は原町田1丁目8で、ホテルザエルシー側より横浜線を越える原町田橋を渡った横浜線の線路際にある。院名が金森山でもあり、開基が金森村地頭高木伊勢守・守久の叔父大河伊与（光雪院安心宗保居士）でも有ったためか、原町田に有りながら檀徒に原町田の人は居らず、旧金森村の住民のみだそうである。

⑦ 町田天満宮（旧菅原神社）

町田三天神のひとつ（ほかには本町田の菅原神社、南大谷の天神社）。元々は菅原神社だったが、昭和39年に大綱神社・日枝神社を合祀し、町田天満宮と名称を変更した。創建年代不明。元和元年（1615）天満天神奉遷宮の棟札がのこされている。昭和40年ころまでは奉納相撲が行われ、昭和初期の横綱男女ノ川や関脇相模川が訪れたこともある。

毎月1日は市の日で、アンティークな出店も多く、狭い境内が訪れている人でごった返していた。世田谷区のぼろ市の町田版であろうか。

⑧ 「行幸道路」と「お召しホーム」

座間にあった陸軍士官学校の卒業式にむかう昭和天皇のために作られた道で、けやきはその時に植樹されたもの。現在のＪＲ町田駅から横浜寄りの乗降専用ホーム（通称「お召しホーム」）があった。

昭和12年、陸軍士官学校は市谷より座間の地に移転し、昭和天皇より相武台と命名された。終戦後は連合軍に接収され米軍キャンプ座間の一部となっている。

行幸道路はＪＲ町田駅南口より、ほぼ小田急小田原線に沿った県道51号と考えられている。

⑨ 鹿島神社・青柳寺

武相困民党結集地の一つ。記念碑と指導者渋谷彦右衛門らの墓がある。また民権家山田嘉穀が揮毫した戦争碑などがある。青柳寺住職の八幡城太郎（本名は神部宣要）が俳句同人誌『青芝』を発行し、青芝俳句会の活動拠点となった。青芝俳句会に関わる史料は市民文学館に保管されている。

鹿島神社・青柳寺の所在地はＪＲ町田駅南口より5分ほどの境川を渡った相模原市上鶴間にある。お墓の多くは渋谷家となっている。昔の鶴間村は現在、相模原市、大和市、町田市の3市に分割されているため3市に鶴間の地名が残っている。現在の町田市が明治の一時期に神奈川県であったのが納得できる県境となっている。また鹿島神社と青柳寺の境界は無いようで、明治以前の神仏混淆の様子が伺われる。

今日の勉強会はこれにて終了、私たちは千寿閣（ホテル&ボーリング場）の側を通り、ヨドバシカメラ町田店（境川の手前でＪＲ町田駅前なのに、ここも神奈川県相模原市である）の店頭まで歩き、おおよそ12時過ぎにＪＲ町田駅南口にて解散となった。その後有志4人で小田急デパートの食堂街のＳ店にて反省会となり、昼食にザルそばと生中で打ち上げとなる。

《備考》¹⁾ ハイน์リッヒ・シュリーマン

少年時代に感動を受けたホメロスの物語が架空のものではないと信じ、トロイ発見のためトルコのヒッサリクを発掘し（1871～73）、城壁、財宝などを発見して、トロイ文明の存在を証明したことで知られるシュリーマン。世界周遊の旅の中で江戸時代の日本にやってくる。江戸時代に訪れた場所は、横浜、八王子、浅草、愛宕山など、外国人への襲撃が繰り返される中での訪問だった。『シュリーマン旅行記 清国・日本』より。（記：小林尚道）



【文責：専務理事】